

# くろつち便り

内容：くろつち会作品展／くろつち旅行／学習会 12/4  
金曜集会／脱原発全国集会／反PKO緊急集会  
五木の子守歌考／「戦争中の暮らしの記録」より

## くろつち会 作品展

今年で5回目となる作品展は、出品者や実行委員の協力のもとで、盛況の内に終わることができました。

多い日で二百数十名の来場者がありました。



## アンケートから

バッグに興味を持ったので、自分も習って作ってみたいと思う。どうしたらよいか。習える教室があれば勉強してみたい。

(たまたまだいわに来て知ったという40代の方)

どの作品もすてきです。出品なさった皆様方の日頃よりお努めなさるお姿が目につかぶようです。これからも作品展をずっと続けて下さい。応援しております。

(短歌・書道をやってみたいという50代の方)

なつかしい先生方の作品が見られてよかったです。何か始めてみたいと思いました。来年も楽しみにしています。

(家族が出品しているという50代の方)

どの作品もすばらしかったです。桜島の葉書をいただきました。東京のお友達に送ります。

(だいわに来て知ったという60代の方)

絵やかご盆栽など、また習字、いろんな分野で目を楽しませてくれる企画でした。また葉書も頂き、ありがとうございました。

(油絵をやりたいという60代の方)

みんな素晴らしい作品をたくさん出して下さって感動しました。これからも元気で頑張って、たくさんの人を喜ばして下さい。

(また次回も見たいという70代の方)

どれも立派で、心のこもった作品で感じ入りました。また見たいと思います。頑張ってください。

(たまたまだいわに来たという80代の方)

ぼんさいのすばらしさを知った。

(また見たいという10代の方)



## 会場に珍客

一週間で千人近い来場者だったと思いますが、中には変わった来場者？もいました。

坂元先生がちょっと来て、というので山崎先生の盆栽のところに行ってみて驚きました。写真中の矢印の先に、ひっそりと隠れているのが何か分かりますか？

拡大したのが下の写真です。普通のより少し黒っぽいですが、ミノムシですよ。本来人工的な盆栽が自然物を取り込んで、何かしら味わい深いものになっているように感じました。

2016年度の黒土旅行が11月14日、29名の参加者で五木村をメインに実施されました。午前8時、予定時刻通り支部を出発。バスの中では五木の子守歌や愛唱歌をみんなで歌いながら久しぶりに修学旅行気分を味わいました。



歌碑前での記念写真

途中、トイレ休憩をはさみ3時間ほどで目的地、五木村子守歌の里へ到着しました。

秘境の地といわれる五木村は深い山々に覆われ、紅葉しかかった山肌と溪谷が美しい景観を醸し出していました。子守歌公園の道の駅での買い物や散策を楽しみ、近くのレストランで食事。シイタケや手打ちそば・ヤマメの唐揚げ等地元特産の食材を生かした料理に大満足。食事後、五木の子守歌の

歌碑前で集合記念写真。1時間半ほど五木村に滞在して次の目的地森岡城へ向かいました。

森岡城は、歴史的な城ではなく個人により築城された現代版の本格的な城でした。規模といい築城の資材といい、ただただ驚くばかりでした。城内建築もさることながら庭園も整備され、桜や藤など花の時期に訪れるのもいいかもしれません。

午後5時過ぎ予定通り鹿屋着。

今回の旅行は、途中から雨が降り出し、天候のよくない中での旅行となりましたが病人やけが人・大きなハプニングもなく無事に終了しました。来年も黒土旅行には是非参加したいという声が多く聞かれました。今回の黒土旅行を担当・企画してくださった野間先生、関係者の方々に敬意を表して黒土旅行の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

## 五木の子守歌考

坂田勝

“おどま盆ぎり盆ぎり 盆から先やおらんど 盆が早よ来りや 早よもどる”

『私は、盆までの約束で、この家へ奉公に来ているのです。盆が来りや、家に戻れるのです。早く盆よ、来てくれ』と家へ帰れる日を待つ気持ちが歌われています。

“おどまかんじんかんじん あん人達アよか衆 よか衆よか帯 よか着物”

『私は、勧進（物乞い）みたいです。でも（奉公先の人たち）ここの人たちは良い着物を着て立派な帯を締めて、幸せだなあ』と羨む気持ちが歌われています。

「かんじん」とは、「勧進」であり、社寺・仏像の建立・修繕などのために人に勧めてお金や品物を

募ること。またその人。後に転じて「物乞い」と同意に使われるようになりました。三十三人衆と呼ばれる地主の「よか衆」に対してかんじんは「小作人」の意が込められています。

このように五木の子守歌には被差別者としての苦しみやよか衆に対する小さな抵抗感が込められて唄われていて五木の子守歌から当時の五木村の生活や歴史を偲ぶことができます。尚、作曲家古関裕而が編曲した「五木の子守歌」は、1950年（昭和25）から10年間NHKのおやすみ番組の電波にのり、日本の代表的な子守唄として、全国にひろまりました。五木の子守歌は森繁久彌とも縁があり、歌碑には森繁久彌の直筆の文字が彫られていました。

# PKO駆けつけ警護に 反対する緊急集会

戦争法の具体化が顕著になってきている。駆けつけ警護に抗議しての座り込み集会が航空基地前で行われた。(右 21 日,南日本新聞)

PKO 協力法は反対を押し切って1992年に成立したというから、あれから24年経っている。あの時に盛り込まれたのが、PKO 参加5原則。この原則があるから戦争に荷担することはない、と言っていた。

5原則というのを再確認すると、

1) 紛争当事者間で停戦合意が成立

- 2) 現地政府や紛争当事者の受け入れ同意
- 3) 中立的立場の厳守
- 4) これらの条件が満たされない場合に撤収が可能
- 5) 武器使用は防護のための必要最小限に限る。

「駆けつけ警護」は5原則を踏みにじるものであるし、明らかに憲法違反である。



「駆けつけ警護反対」と声を上げる集会  
参加者=20日、鹿屋市の海上自衛隊鹿屋航空基地前

「命を落とす危険もある」鹿屋で市民集会  
陸上自衛隊の駆けつけ警護に反対する「反戦・反核・脱原発・平和運動をすすめる大隅市民の会」は20日、鹿屋市の海上自衛隊鹿屋航空基地前で緊急集会を開き、「憲法が禁じる海外での武力行使だ。自衛隊員が命を落とす危険もある」と抗議の声を上げた。約30人が参加。紛争当事者間の停戦合意など、国連平和維持活動(PKO)参加5原則にも反しているとし、任務付与の根拠となる安全保障関連法の廃止を訴えた。松下徳二会長(78)は「日本が戦争に加わるのを黙って見ているわけにはいかない。声を上げ続けた」と話した。(大川源太郎)

**12月4日の学習会**では、まさに戦争法と憲法との関わりがテーマです。戦争法が我々の日常とどう関わってくるのか、学習を深めたいものです。

講師 小栗実先生(鹿大)

講演会 演題「憲法をめぐる日本の政治状況について」

千成本店 10:30~(受付 10:00~)



## 「戦争中の暮らしの記録」より

樋園 哲思

NHK「ととねえちゃん」の中で話題になった『暮らしの手帖・戦争中の暮らしの記録』(S.44.8.15初版,H28第21刷290頁)の序文中で、戦争の経過や指導した人たちのことは歴史に残されるが、庶民の生活の歴史は残されないということを、編集長花森安治氏が次のように述べています。「…それは、言語に絶する明け暮れの中に、人たちは、体力と精神

力のぎりぎりまでもちこたえて、やっと生きてきた。…こうした思い出は、一片の灰のように、人たちの心の底に深く沈んでしまっていて、どこにも残らない。…その戦争のあいだ、ただ黙々と歯をくいしばって生きてきた人たちが、なにに苦しみ、なにを食べ、なにを着、どんなふうに暮らしてきたか、どんなふうに死んでいったか、どんなふうに生きのびてきたか、

…どの時代の、どこの戦争でも残されていない。…それを君に知ってもらいたくて、この貧しい一冊を残していく。…」

戦争がいかに庶民の生活や人生を破壊するのか、戦争とはどういうものなのか、どうしても伝えたいというジャーナリスト魂が伝わってきます。

戦争法がどういう結果をもたらすのか考えたいです。

# 金曜集会

11月4日は、金曜集会がありました。



だいぶ薄暗くなった中、リナシティ前で戦争法廃止・脱原発を訴えました。

車の往來の激しい時間帯で、いそいそと通り過ぎて行く車が多い中、走行車からこちらをちらと目をやる運転手、信号待ちで停車中に、こちらをじっと見つめている運転手もいます。

**次の金曜集会は、12月2日(金)17:00~です。**

お時間と体調が許すなら、リナシティ交差点前に集まって下さい。

## 脱原発集会

「川内原発は2度と動かさない」  
★さよなら原発！ 11.13 全国集会★

鹿児島中央駅東口広場に全国から約2000人が集結。  
(↓延々と続くパレード)

地域毎の挙手人数をみると、半数以上は県外からだったでしょうか。肝属からも、くろつち会をはじめ、多数参加しました。

基調提案の後、全国各地からの報告、集会アピールの提案・採択と続きました。

アピール文の冒頭部分です。

《(先の県知事選で)「原発は、もうダメ！」という鹿児島県民の意思が示されたのです。

にもかかわらず、九州電力は、三反園新知事の再度にわたる停止要請を拒絶し、そして10月6日定期点検に入った1号機を12月8日に、続いて2号機も予定通り再稼働させると発表しました。まさに県民意思を無視した傲慢な姿勢です。》



(上は合成写真です)

くろつち会学習会でも、原発は事故を起こさなくても、稼働そのものが大規模な環境破壊につながっていることを学習してきました。

40年が限界とされる原発を、九電は20年延長し、60年にしようとしています。

「もんじゅ」は廃炉、また核廃棄物の最終処分の方法もメドも立っていない中で、限界を越えた稼働させるという。

集会後のパレードは、大人数のため肝属をはじめ最後尾県内勢が会場を出るまでに40分以上かかったようです。

